

公開シンポジウム「東北における女子ミッション教育の社会史」開催報告

天 童 睦 子

公開シンポジウム「東北における女子ミッション教育の社会史」は、大学開学70周年記念事業プレ企画として2018年11月24日に開催された（主催 宮城学院女子大学）。本学附属キリスト教文化研究所、および「女子ミッション教育史研究会」の共催、宮城学院同窓会の後援により、学生、卒業生、研究者、市民など300名近い参加者が集い、実りあるシンポジウムとなった。

「女子ミッション教育史研究会」の発足は、代表の片瀬一男・東北学院大学教授の発案に遡る。私（天童）が本学に女性学担当教員として赴任した2015年、社会学分野の会合で接する機会があった片瀬先生が、女子教育、とりわけ宮城学院の歴史に関心を抱かれていることを知った。さっそく研究会を立ち上げ、2017年度からは研究助成（科研費）を得て、本格的に「ミッション系女子教育の戦後史」研究に着手した。

私たちの研究会は、主に社会学や教育史研究を専門とするメンバーで構成され、社会の構造的変化や女性の教育史の変遷を辿り、キリスト教主義に基づく女子教育の独自性、可能性を検討することを特徴としている。2018年のシンポジウムでは、稲垣恭子・京都大学大学院教授を招いて、文化社会学の視点から、明治期の「女学生」の誕生から、ポスト近代の教養に至るまで、「ミッション系女学校の教養文化」の講演をいただいた。その要約は、宮城学院資料室年報『信・望・愛』第24号（2019年3月発行）に掲載されてい

公開シンポジウム「東北における女子ミッション教育の社会史」開催報告

る。

本誌『研究年報』（第53号）に収められた論稿は、上記のシンポジウムやこれまでの研究蓄積を活かして、また卒業生インタビューや史料収集から得た知見をふまえて、女子ミッション教育史の研究成果の一端を発信するものである。

インタビュー調査では、本学の卒業生の方々に多大なご協力をいただいた。宮城学院同窓会ははじめ本学関係者の温かい対応にも感謝したい。また史料収集では、本学のみならず東北学院大学史資料センターにも大変お世話になった。研究は人の心をつないでいく。ご助力くださった皆様に、本誌を通して心より御礼申し上げる。

公開シンポジウム（大学開学70周年記念事業プレ企画）

日時：2018年11月24日（土）

於：宮城学院女子大学 講義館 C202

「東北における女子ミッション教育の社会史」

1. 講演 「ミッション系女学校の教養文化」 稲垣恭子
2. 研究報告 「集合的記憶の文化社会学—宮城学院創立記念誌『期にいたりて実を結び』の内容分析」片瀬一男（キリスト教文化研究所『研究年報』第52号 pp. 89–110所収）

コメンテーター 宮城学院同窓生 岩井陽子、佐藤美千代、佐藤文香（三世代のご家族によるコメント）、同窓生 明城千枝（本学音楽科卒）

企画・司会 天童睦子

論稿（本誌所収）

1. 戦後日本社会における女性たちの「もうひとつの」個人主義—宮城学院同窓生の生活史の分析から— 片瀬一男 相澤出 遠藤恵子

公開シンポジウム「東北における女子ミッション教育の社会史」開催報告

2. 「女性と教育」の近代—女子大学の史的変遷をふまえて— 天童睦子

[付記] 本研究は、JSPS 科研費17K04570（研究代表者 片瀬一男）による助成を受けた研究成果の一部である。